

榮光

『驚くべきものに造り上げられます』

詩編139編1節524節
ガラテヤの信徒への手紙4章9節

柿ノ木坂教会牧師 渡邊義彦

わたしたちの中には、結婚している者も、そうでない者もいます。

幸いな結婚を続いている者、結婚は不幸で苦しいと思っている者もいるかもしれません。これから結婚する者、年を重ねるまで結婚してこなかつた者もいます。結婚を解消し離婚した者もいるかもしれません。夫、妻が既に先に召され世での結婚を解かれた者もあります。結婚について様々ななかたちが

けれども、わたしたちが、今日、命をいただいてここに生きている、ということは、どのような結婚のかたちであっても、父となつてくれた人、母となつてくれた人がいてわたしがいるのです。わたしが存在するに必ず父、母がいます。

にすることを教えます。しかし、結婚の大切さを教える一方で、人間の結婚が完全ではなく永続するものではない、人間の結婚の限界をも当然知っています。人間の結婚の限界を踏まえて、聖書は結婚の秩序、離婚する者たちへの配慮をも伝えます（Iコリント7章）。

彼らが良い父、母であつても、悪い父、母であつても、父母がいてくれて生まれたという事実がわたしの身の上の起ころのに、神の御心、御意志、御計画があつたことを、わたしたちは聖書と信仰に基づいて信じています。

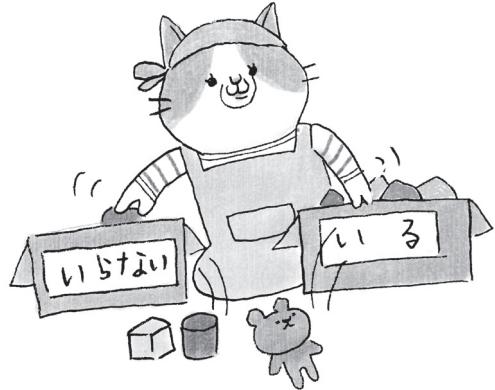
この限界を持つ人間の結婚に、新約聖書においては、夫としていてくださるキリストと妻とされたる教会のあり方、旧約聖書においては、夫でいてくださる主なる神と妻であるイスラエルのあり方を見ています。壊れてしまふほどに脆く、欠けある人間の結婚に、永遠でいてくださる神と、神の民の永遠の継続するあり方を見ています。主なる神とわたしたちのあり方は、ときとして夫婦の関係としてたとえられ、またときとして、父子の関係にたとえて、夫婦であろうと、親子であろうと人間同士の繋がりにおいて実に危ういものと思わざるを得ない関係に、神がわわたしたちを愛していくくださる完全なことが、欠けある仕方ながら表わされているのです。

とを信じるところからだけ謳う」とのできる詩です。

また、使徒パウロは、人が母の胎に命を与えられて生まれてくることを教会に当てはめ、さらに大きなこととして考えました。女性だけが経験する産みの苦しみを男性は到底経験も理解もできませんでした。けれども母親が経験するのと同じ苦しみを教会が再び生まれるため苦しんでいる、とパウロは語るのです。使徒は、福音から離れてしまっている教会に呼びかけます。兄弟姉妹たちが、もう一度、福音に聞くことができるよう、もう一度、聞いた福音を宣べ伝えることができるよう、祈り、呼びかけるのです。

教会の改革者たちは、教会は必ず改革されると言いました、終わりの日まで、生涯に亘つてわたしたちは罪人として悔い改めることを言いました。わたしたちは新しく教会と出会い、キリストの大きさを知つてゆきます。これまでもそうであつたように、これからも、主なる神が、この経堂の地での教会の伝道と、教会の建設に御力を注いでくださいます。

断捨離 して いますか



断捨離とは必要のないものを捨てて物に捉われない生活を手に入れること。効果があると分かっていてもなかなか実行できないものです。あなたが整理したいもの、整理してよかったですは何ですか？

マニアで働いていた時も含める
と、数えきれないほど引っ越しを
しました。娘を産んでからも大家
さん都合などもあり4回引っ越し
をしています。そのたびに、ささ
やかながら増えてきた家財道具を
眺めて、できるだけ物を持たずに
身軽でいようと思つていたはずな
のにと首を傾げつつ荷造りをしま
した。「地上に宝を積んではなら
ない」という御言葉を思います。

井戸を掘つていた頃、「土の人
と風の人」という話題になり、土
地に根を張つて有機農業や林業を
始めた仲間たちは「土の人」で、
いつまでもあちこちでフラフラと
井戸を掘つている私は「風の人」
だね、と話したことがありました。
風の人が種を運び、土の人が豊か
にした土壤でその種が芽吹くか
ら、ちょうどいいんだねと楽しく
盛り上がつたのを思い出します。

そんな私は、引っ越しのたび

に、あれもこれもいらない！と一
気に処分したくなるのですが、対
する娘は慎重派です。思い出を
大切にします。「保育園で拾つた
葉っぱを入れるために作った箱」「誰々
ちゃんがくれたあれこれ」と、ヨ
レヨレになつた紙の箱や、紙コッ
プと銀紙のボールで作つたオモチ
ヤなどを大切にしまい込んでいま
す。私が持ち合つせていない柔ら
かでみずみずしい感受性が、娘の
中で育まれているのを感じます。

一方で、ゲーディツ家・KUMA
さんこと篠原勝之さんが小説作品
で書いた「もちおもり」という言
葉も、私は折々に思い出します。
さまざま「モノ」も「コト」も、
その背後にある物語とともに、い
つしかずつしりと「もちおもり」
してくるのです。本当に大切なも
のは多くはないはずだよな、と思
うにつけ、ずつしりとした何かを
「断捨離」していきたくなるので
しょう。

そして今日も、「いらぬいもの
は整理しなさいよ！」「わかつて
るよ！」という高校生になつた娘
とのバトルが繰り返されます。

地上で必要なもの

大友麻子

進まない片付け

漫 真智子

一人が生きていくのに必要なものはどれくらいなのだろうか…

の車に半分ほど、それほど多くはない
ありませんでした。異常な暑さの中で度々ダウンしてしまった親たち
を守るのは限界でしたので、良い
場所を与えたことを感謝しました。
そして、晩年を生きるとい
うのは誰かに身を委ねることだと
思いました。

と考える今日この頃です。義母の住んでいた柏市の家の片付けをしている最中にこの原稿の依頼を受け、ドキッとしました。

物量の多さに身も心も押し潰される…と感じるほど。暑さも相まって、息苦しく憂鬱になつてしまっています。業者に任せるにしても、ある程度の整理はしなければなりません。なぜこんなに沢山?と思ひますが、今は不要なあれもこれも、かつては必要で、それぞれに意味があつたのです。60余年を莘に暮らした証しでもあります。3人の親が施設で暮らしていくま

せに暮らした証しでもあります。
3人の親が施設で暮らしていくま
す。父と義母は昨夏、一番暑い時
期、同じ週にそれぞれの場所へと
移動しました。準備するものがほ
ぼ同じだったので、2つずつ購入
し衣類含め、全てに名前を書きま
した。荷物をまとめると施設へと

「生きることって食べて寝て排泄して洗ってなのだなあ」。本当にそうです。いつか自分にもそのような時がやってきます。その時に自分たちが親にしていることを誰がしてくれるのだろうと思います。誰かがわからないのなら、やはり準備は必要、断捨離はそのはじめの一歩なのかもしれません。これから実家、そして我が家の中だけもあります。モノだけでなくデータ断捨離も。いくら時間がかかるあっても足りないとと思うほどのザリユームです。

リユームです。
必要は既に与えられていることに感謝し、もっと頭を使わなければ。この身ひとつで天に帰ることを忘れずに、歩みたいと思います。

気持ちも一緒に整理する

1966年の丸紅の手帳がありました。日記として使っていたようですが、パラパラとめくつてみると、「健6歳」と書かれた弟が鉛筆で描いた絵がありました。初めて見る絵に一人とも思わず笑ってしまいました、「これは取つておこう」ということで一致しました。

整理しながら、母の存在をとても身近に感じることが出来てします。母のいつもの顔、家族で過ごした色々な思い出が蘇り、寂しいけれど、気持ちが温かになります。

母の本とバッグは、先日行われた札押後のミニバザーに出すことになりました。私は伝道委員会があつたので、夫に売り子をお願いしたところ、終わつた後、「何人かの人がママの話をしながら買つてくれたよ」と嬉しそうに話してくれました。整理した結果、「捨てる」のではなく、こうしてまた使つてくださる方がいて本当に嬉しいです。物は「モノ」であつても、そこには使つていた人の「キモチ」もあると思うからです。

畠山直子

夫の死後8年近く経つのに遺品片付けは終わっていない。いくつかまだ使用価値がありそうなものは人に差し上げたり、フリーマーケットアプリを利用して売つてもいる。その売上金で孫たちを回転寿司に連れて行き、「今日はおじいちゃんのごちそうよ!」と自慢する。とはいえるがもともと寂しいのは寂しいと思い、いくつかのものは残しておきすぎてあまり進まない。しかし私自身がいなくなつたら、残された家族に片付ける手間をかけるのは心苦しい。

とりわけ悩ましいのは日記である。夫は年に2冊は書いていたし、私は1年1冊なので二人分でゆうに百冊を超える。

夫の日記はときどき読んで、ひとりで涙したり、笑つたりする。「こんなこと考えていたのか」や、「この時は苦しかったね」、あるいは「楽しかったね」とひとり呟く

こともある。夫は私は読まれるとは考えていなかつただろうけれど、「そのうち処理しなければいけない」と言いつつ、亡くなる十日前までつけ続け、処理できずに召されてしまった。私たちの日記を家族といえども他の人には読まれたくない。尤も読みたい人もいるだろうから、おそらくすぐに廃棄されると思うのだが。

断捨離は少しずつ進めているが、それらは全て食器、衣類、装飾品、書籍などモノ。日記はそうはいかない。私たち夫婦の日記など、文学的にも社会的にも価値は皆無なので、私が自分で処理できるぎりぎりのタイミングを見つけることが重要課題なのだ。しかし急に召されたらどうしたらよいのか、先日突然悩み始めた。日記をつけられる年齢や肉体的制限と、これまでの日記を焼却する時期を見極めなければならないのか。

その後、コロナ禍には私一人が2階に移り住むことになりまた。短い期間でしたが、伯母との距離が縮まつた、神様からのプレゼントのような時間でした。時に喧嘩もしたけれど、伯母との暮らしは気今まで楽しいものでした。お花を生け、お茶を点て、好きで集めたものに囲まれて暮らしておられた伯母は、一人だけれど、ちつとも寂しそうではありませんでした。このティーカップ可愛いよ

伯母のお家のお片付け

牧内美和

ね。おばちゃんに何かあつたらちようだい」「いいわよ」。こんな軽口も平気で交わせる一人でした。今年の3月3日に伯母は93歳で亡くなりました。お正月には「また来るね、元気でね」といつものよう手を振つて閉めた扉。次に会つたときは病院のテレビ電話の面会でした。その時も「また来るよ、次は退院してお家でね」と別もで溢れていました。幸せな子ども時代でした。牧師の祖父と幼稚園園長の祖母、経理運営を担つていた伯母。子どもの喜ぶことに熟知している人たちでした。のちに移り住んだお家には伯母の夢が詰め込まれていました。

5月に納骨式をして母と妹と3人でお家の片付けをしました。次々と出てくる母手作りのワンピース、大量の食器、着物や本。あれもこれも伯母の宝物はみな持つて帰ればよかつたかしら、あのお金に住み続けることで守ることは出来なかつたかしら。子どもの頃遊んだ木のおもちゃが出てきました。引っ越ししても捨てなかつたのは、伯母があの夏の思い出を大切にしていたからかな。そして約束のティーカップは今私の手元にあります。可愛いものが好きで沢山のものに囲まれていた伯母。伯母との思い出は物以上に今もあれやこれや溢れて、しばらく片付けつてないのでしょうか?

説教

詩編32編1節～11節
ヤコブの手紙3章1

ヤコブの手紙 3章 1節～4節

岸俊彦

でしょうか

「私が沈黙していたときは」「一
日中呻き、骨も朽ち果てました。
昼も夜も御手は私の上に重く／＼
の暑さに気力も衰え果てました。
(詩32・3～4)。まことに、私たち

罪と死から救つてくださる真理の言葉、まことのロゴス、主イエス・キリストこそ（ヨハネ1・1）、日々転ぶ私たちを支え、導く、繕うのであり、舵となつてくださいます。このロゴスに聞き、罪を告白し、

「多くは教師になるな」(ヤニア)
3・1)との命令は、2章からの
続きです。そこでは「行いのない
信仰もまた死んだものです」(2
・26)と語られていました。ヤコ

遊であるようになると語りました。弟子（教師）の特権意識をキリストが糾しました（マタイ23・11、12）。16世紀の宗教改革者たちは、信仰のみ、聖書のみの宗教改革原理を教会制度にまで徹底し、万人怒司（全信徒祭司性）を説きました

「私の背きを主に
です（詩32・5）

がありました。口先ばかりの信仰が教会を混乱させました。行いの伴わない信仰を説く教師（牧師）が、教会の混乱の元凶でした。御言葉に聞き従わない、宜しくない教師の存在を踏まえて「多くは教師になるな」と、ヤコブは命じました（2テモテ4・3～5参照）。

牧師であろうと信徒であろうと
主の栄光のためにそれぞれ主に召
され、賜物を生かして働く祭司で
す。それぞれが御言葉を説き明か
し、伝道します。働きの違いはあ
りますが、信徒も牧師も対等です
教師が聖職として特別視されるこ
とは聖書的ではありません。

ヤコブは、3・3 「馬を御するには、口にくつわをはめれば、その体全体を操ることができます（3・3・詩32・9）と語りました。馬を御する轡とは何でしよう。その続きには、激しい風に吹かれる大きな船を、まっすぐに進めるため、舵取りが操る小さな舵について

てヤコブは語ります。大きな船を操る小さな舵とは何でしょう。

います。キリストこそ、私たちの
隠れ場。苦しみから私たちを守り、
救いの盾で囲んでくださいます、
たびたび躊躇、転び、過つ私たち
を、なんとかまつすぐにキリスト
の道を行くことができるよう
に、主がまことの口ゴスに聞くよ
うにしてくださいます。聞くだけ
ではありません。まことの口ゴス
を食べさせてくださいます（イザ

12・38(40)。弟子たちには「あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない：あなたがたの教師はキリスト一人だけである」(マタイ23・8、10)と諭しました。誰が一番偉いか争う弟子たちに、謙

ちを犯す」（ヤコブ3・2）からです。「私たち教師は皆」と読むべきではありません。礼拝する私たち皆が過ち罪を犯します。礼拝する私たち一人ひとりが、キリストの福音に聞き従おうとしている

ヤコブは「御父は、御心のままに、眞理の言葉（口ゴス）によつて私たちを生んでくださいました。それは、私たちを、いわば導かれたものの初穂とするためです」（1・18）と語つていました。

ヤ 50・4)。
御言葉に聞き、祈り、聖靈に執
り成していただき、主を信じ、罪
の赦しを確信し、罪を告白し、主
に祝福されて生きる私たちこそ、
まことに幸いな者です。

教会学校夏期キャンプ報告

今年度は異例づくめのCSSキャンプでした。岸牧師と石室校長が不参加の上、当初予約していた施設が諸事情で利用できなくなりました。そのため急遽、最繁忙期でも利用できる先を探し、期間を1泊2日に短縮して、辛うじて予約できた「高尾の森わくわくビレッジ」を初利用して開催にこぎつけました。心配もありましたが、子どもたちは元都立高校をリノベーションした宿を気に入り、用意したプログラムも楽しめたようでした。教師陣はほつと胸を撫でおろしました。

キャンプのテーマは、CSS年間テーマと同じく「この人を見よ」とし、キリストの生涯について学びました。教会で岸先生の説教による主日礼拝を守り、出発しました。宿到着後は、施設探検と謎解きを兼ねたオリエンテーリングにより、イエス様の生涯を題材にした西洋絵画を時系列順に並び替えたり、「この人を見よ」の歌詞が登場する『まぶねの中に』をハン

ドベルで奏でたりしました。夜は、皆で和気藹々と回転しりとりや十字架音頭に興じました。

翌朝は絵日記の代わりにみんな

でひと言感想を書きました（本稿後半に記載）。教会1階に実物を掲示。加えて、みんなで協力して、

イエス様と弟子の象徴としての魚と、「この人を見よ」のラテン語

である「ECCE HOMO（エッケ・ホモ）」をあしらったちぎり絵を制作しました。集合写真にも写っていますが、教会の礼拝堂手前の階段に掲示してあるので、是非ご覧になつてください！

閉会礼拝では、諸橋長老の説教で「見よ、この人だ」と語り、主イエスの無罪を確信しながらも聴衆の圧力に屈したピラトの罪を知り、帰途につきました。

2日間ということもあり、大人も子どもも体力が切れず、爽やかなキャンプとなりました。子どもたちがキリストを近くに感じ、人知をはるかに超えた、私たちに対する愛に気づいてくれたらと、願い祈るばかりです。（原 良介）

小学4年 重藤利愛

私が、楽しかったことは、ご飯字架音頭に興じました。

私は、1日目のなぞときや、十

じかおんど、みんなでごはんを食べたことなどがとても楽しくて、思いでになりました。

小学4年 嵐山詩央

私は、1日目のなぞときや、十

じかおんど、みんなでごはんを食べたことなどがとても楽しくて、思いでになりました。

中学1年 重藤佑里花

今回キャンプに来て、楽しい思

い出が出来ました。プログラムも

全部おもしろかつたし、イエス・

キリストについて楽しく学べる事

が出来ました。

高校1年 角田由希

2日間という短い間だつたけれど、なぞときやしりとり大会、制

作プログラムなど、多く

のアクティビティができて楽しかつたです！ あとご飯がおいしかつた！

みんなで奏でたハンドベルに感動☆十字架音頭とっても盛り上がつたね！ みんな仲良しだつた!! 最高？

教師 石室優子

みんなで奏でたハンドベルに感動☆十字架音頭とっても盛り上がつたね！ みんな仲良しだつた!! 最高？

教師 諸橋鷹広

汗をかきながら、たくさん遊んで、イエスさまのことを学んで、実りある2日間でした！ 初めて訪れた施設ですが、大人も子供も大満足！！

訪れた施設ですが、大人も子供も実りある2日間でした！ 初めて

訪れた施設ですが、大人も子供も実りある2日間でした！ 初めて



渡邊義彦牧師との懇親会報告

「驚くべきものに造り上げられます」と題した礼拝説教ののち、

渡邊義彦牧師との懇談会が礼拝堂で持たれました。まずは岸俊彦牧師との交わりを中心に、東京教区総会議長になるまでのご自身の経歴を紹介くださいました。

1961年二鷹市平井のお生まれで、幼少時代は地元の学校に通い、東久留米の教会のメンバーでした。おばあ様が岸牧師の出身の教会である相愛教会のメンバーで、実際には会ってはいないものの昔から岸牧師とは何らかの繋がりがありましたとのこと。東京神学大学卒業後は柿ノ木坂教会伝道師、副牧師を経て、2001年より麻布南部坂教会牧師就任（～2010年）。その頃から東京教区西南支区で働き、支区長であった岸牧師から書記に指名されました。そして東京教区においても岸牧師と共に働き、岸牧師の東京教区総会議長退任ののち、後任の議長に就かれました。

次に、1971年から20年間、教団の内部分裂のために東京教区

総会が開けなかつた、その弊害としての東京教区の課題を3つ説明してくださいました。

1. 教区負担金未納教会からの負担金の徴収、2. 東京における支区、教区がそれぞれ独自に活動をしており、支区、教区の役割分担の明確化が必要、3. 少子高齢化、クリスチヤン人口の減少による各個教会の財政悪化と同時に起つた東京教区の財政悪化とその立て直し。

日本全国を見回しても、少子高齢化、人口減少、それに伴う様々な産業の衰退、経済の低迷、世界的地位の降格が起こる中、日本のキリスト教も様々な問題を抱えています。クリスチヤン一人ひとりが目の前にあってできることを、たとえそれがどんなに小さな働きに見えようとも、確実に行つていふこと、それが我々に課せられている課題だと質疑応答の際に答えていただきました。

説教だけでは知ることのできない渡邊先生のお人柄に、この懇談会で触ることが出来、大変有意義な時間となりました。

（大西 順）

長老のファイル

12年ぶりに「愛唱讃美歌・愛誦聖句アンケート」を実施しました。提出は済みましたでしょうか？ 私自身は12年前どれを愛唱讃美歌・愛誦聖句にしていましたのか記録しておらず、記憶が曖昧です。

今回改めて讃美歌を選んでみて、年齢やその時の状況によって選ぶ讃美歌は当時と一部変わったかなと思いました。また私の場合、讃美歌1954年版に慣れ親しんで歌う時代が長かったので、やはり1954年版に愛唱讃美歌が多くあります。

愛誦聖句も5つに絞るのはとても難しい作業でした。以前からずっと変わらず愛誦聖句としているのがある一方、新たにインパクトを受けた聖句や説教で教えられた聖句が増えたのだと思います。現在の礼拝では聖書協会共同訳聖書を使用していますが、以前の訳で自分の中にすりこまれている聖句も多く、それはそれで愛誦聖句です。教会員の方々が選んだ愛唱讃美歌・愛誦聖句がどれなのか、調

査結果を楽しみにしています。

岸牧師が経堂北教会に着任されてから42年の間に、共にここで過ごし、それぞれの道へ進まれた兄弟姉妹の中の一人である饒平名丈伝道師（カンバーランド長老キリスト教会泉伝道教会）が振起日礼拝で説教してくださいます。これは同じ時を過ごした私だけではなく、経堂北教会にとつて大きな喜びです。片岡寧子牧師がおっしゃっていましたが、まさに「神様のネットワーク」であり「主とのつながりを喜ぶ」ことができ、感謝です。神様のご計画は本当に私たちにはかりりません。南三鷹教会の小田哲郎伝道師も学生時代を青年会で共に過ごした仲間です。大学卒業後は海外を拠点に仕事を活躍されていましたが、召命を受け、牧師の道へ進まれるとは驚きました。そして饒平名伝道師と小田伝道師は日本聖書神学校で同期だったそうで、更に驚かされました。「私が植え、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させてくださいたのは神です」（コリント3:6）。

（尾藤美紗子）



個人消息



引越のために蔵書を整理しました。日本語の注解書は教会のピスガの部屋に既に整理済みです。古典的洋書の注解書は必要な方に差し上げました。残った本は40冊の段ボール箱50箱分でした。最近転居した方は70箱と聞きましたから、少なめです。

その半分を処分しました。リサイクルに出したり、キリスト教関係の古書店に引き取つてもらつた

掲示板



○西南支区平和講演会

9月22日(日)午後2:30於 美竹教会
「良き力に不思議にまもられて
一ポンヘッファーの平和思想に学ぶ」
東京大学教授 小嶋大造

○聖靈降臨節第20主日礼拝

9月29日(日)午前10:15
説教 狩野進之佑牧師(愛知守山教会)

○西南支区音楽礼拝

9月29日(日)午後2:00於 靈南坂教会

編集後記



△4月から『栄光』校正をお手伝いさせていただいている。背筋が伸びるような気持ちでお一人おひとりの「ことば」に向き合わせていただいている。(大友^麻)

「栄光」2024年9月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話: 03-3428-5029 / FAX: 03-3428-5038
牧師: 岸 俊彦
編集: 栄光編集委員会
Email: kyodon@nifty.com
HP: <http://kyodokita.life.coocan.jp>

り、一般の古本は古書店に持ち込みました。古書店に持ち込んだ4箱は3800円で引き取られました。買ったときの1、2冊分の値段です。車で往復2時間かかりましたから、時給としては高めです。残念なのは、それらの書物が頭の中に入ることなく処分しなければならなかつたことです。

ちなみに、息子が残していくた
ブランド物の服を1袋リサイクル
ショッピングに持ち込みましたが、そ
れらの方がはるかに高い値で引き取られました。

CDやDVDは今回処分しませんでした。本ほどかさばらないし、また観たり聞いたりすることがあると思ったからです。ただし、オーディオ機器は古くなりましたので新しく購入するつもりです。たまたま大阪の買い取り業者が地域を回っていました。どうやつて調べたのか電話があり、見てもらつたところ。ピーカーを予想以上に高値で引き取つてくれました。今の世の中が何を必要としているかによつて、値段がついたりつかなかつたりするのでしよう。

今回の引越でもう一つ思い知らされたことがあります。購入にしろ手続きにしろ、スマホがないと手間がかかることです。仕方なく妻がスマホを持つことになりました。モニターを見ながらキーボードを打ち、ネットで世界と繋がる時代ではないのだと思い知られました。現金お断りの店に入り焦ったことがあります。スマホでなくカードでもいいことに気づくまで間があるくらいですから、完全に時代遅れです。聖書1本で生きられる信じていますが。(岸)